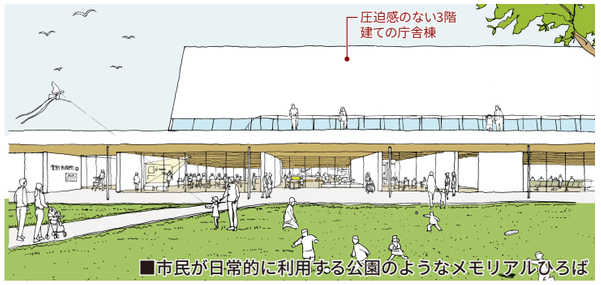
(1) 庁舎周辺敷地の利活用方法

1 みんなのひろば・みんなのあそびば・みんなのにわをつくる

・市民に開かれた「市役所公園」

敷地の広さを活かして、市民の誰もが身近な存在に感じられる場所となります。建築を敷地の南側に配置することで、北側に広がりのあるメモリアルひろば（防災ひろば）を大きく確保します。3階建ての庁舎棟とひろばの間に平屋のコミュニティ棟を挟むことで、**建物の圧迫感を感じない**明るいメモリアルひろばになります。



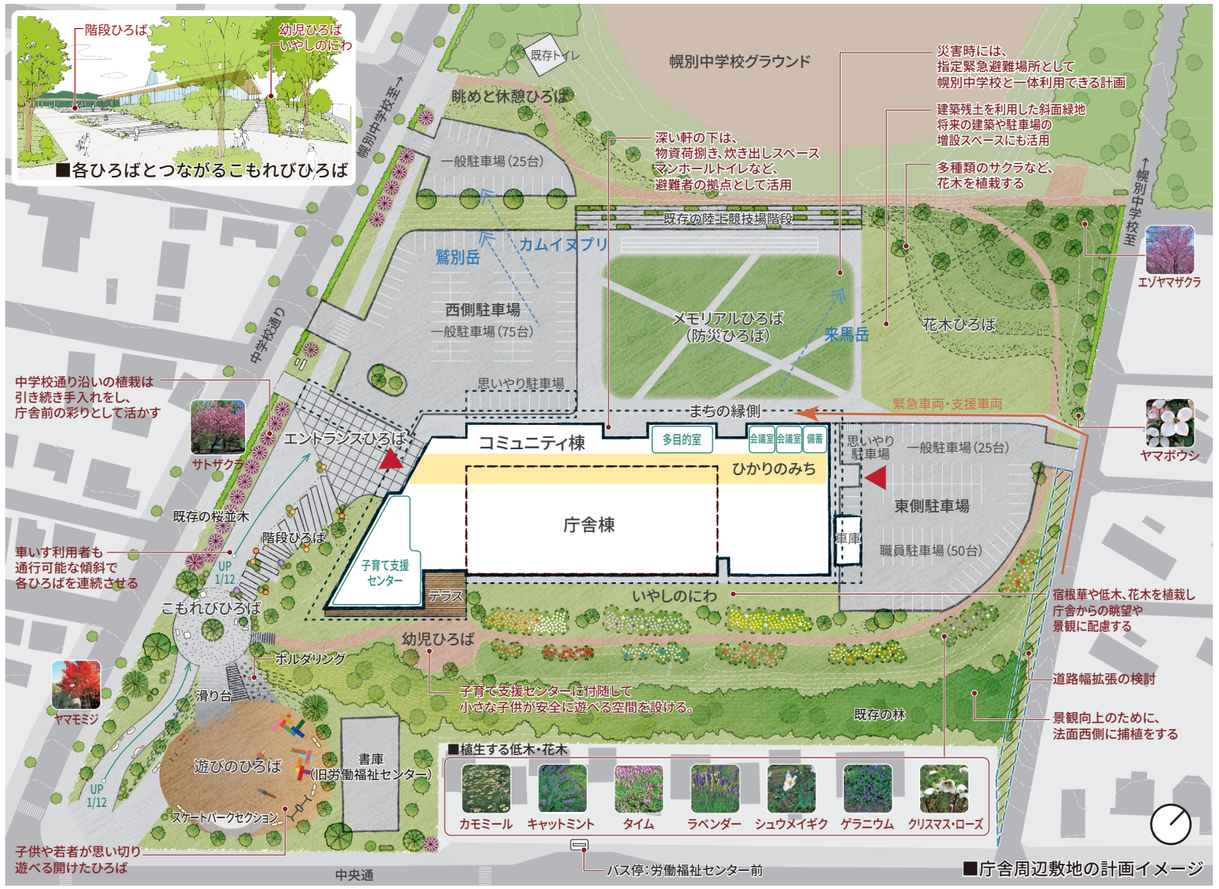
■市民が日常的に利用する公園のようなメモリアルひろば

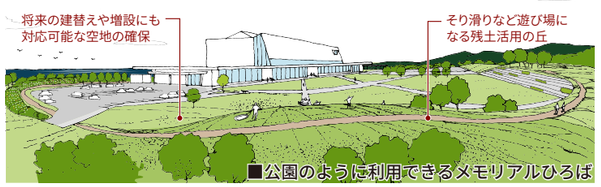
・海と山をつなぐ場所。登別らしい風景。

中学校通りに沿って連続する坂道には、こもれびひろば、遊びのひろばが連続します。坂道の階段からは木立越しに広がる海沿いのまちが見渡せます。また坂道を上る正面には特徴的な来馬岳の姿が見え、エントランスひろばに達したところでカムイヌプリも一望できます。**海と山を感じる、登別らしい風景**をつくります。

・まちなかの花と緑の憩いの場

広い敷地の中に、地形や風景を活かして様々な花や緑を計画し、市民が楽しむことのできる多様な憩いの場をつくります。花カレンダーを計画し、四季折々の風景を楽しむことができます。





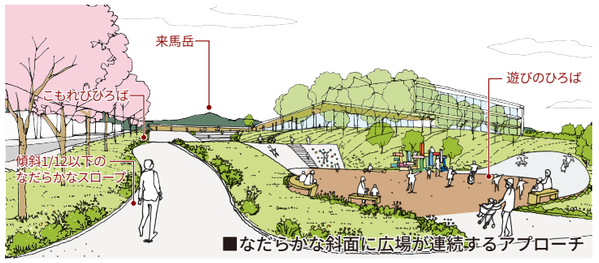
■公園のように利用できるメモリアルひろば

・将来性を考慮した計画

メモリアルひろば東側は**建築発生残土を利用した斜面緑地**としますが、将来の建築や駐車場、太陽光発電の増設スペースにも活用できます。また、中央通りに面する旧労働福祉センターは、当面書庫として活用するとともに、将来解体後にPFI事業など様々な可能性を検討します。

・指定緊急避難所としての役割

災害時において、指定緊急避難場所として幌別中学校と一体となることを想定します。緊急車両・支援車両は東側駐車場、市民の駐車場は西側に分離して、車両動線を明確にします。広場に面する深い軒の下は、物資荷捌きスペースのほか炊き出しスペース、マンホールトイレなど避難者の拠点となります。多目的室がボランティアスペースや物資置き場、ひかりのみちが避難者スペースにそれぞれ転換します。



■なだらかな斜面に広場が連続するアプローチ

(2) 上記①から④までのテーマ以外の独自提案

1 市民・議会・職員の皆さんと共有する設計プロセス

・市庁舎設計を具現化していくための工程計画

市庁舎の設計においては、長い期間にわたって多くの関係者の皆さんが議論に関わります。市民の皆さんの積極的な参加を促す環境をつくり、業務を確実に遂行します。

・市民、議会のご意見の反映

市民自治の推進を担う自治推進委員会、市民の代表である議会の皆さんから定期的にご意見をいただき、議論の成果を設計に反映させます。

・市民WS（ワークショップ）の開催

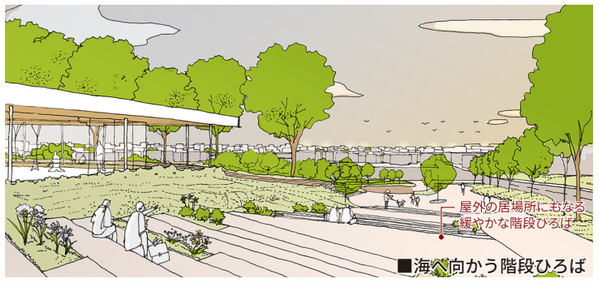
一般市民、こども、子育てなど様々な世代ごとのWSを開催し、様々なご意見をいただくとともに新庁舎に対する興味を持っていただきます。

・職員の皆さんのWG（ワーキンググループ）

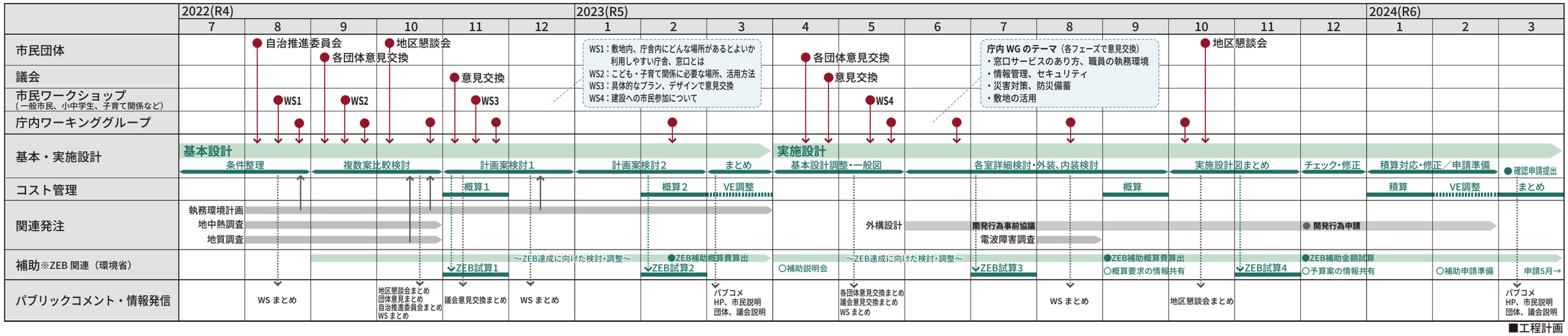
本庁舎で執務を行う職員の皆さんとの議論を綿密に行います。それぞれの部の特徴、必要なもの、働き方改革との関係、セキュリティや情報管理など、多岐にわたるテーマについて多くの打合せ回数が必要になります。オフィスレイアウトについては執務環境計画の受託者と共同で行います。

・社内でつくるCG、動画、環境シミュレーションの共有

弊社は設計工程の中で、多くのCGや動画などのデジタル画像や模型などを内部制作します。これらを様々な委員会や会議などに提示して、**具体的なイメージを共有**しつつご意見をいただく環境をつくります。議論、ご意見による修正を頻繁に行い、パブリックコメントや市民説明を丁寧に行います。



■海へ向かう階段ひろば



■工程計画